

環境省と同時提供

令和3年12月3日

担当課：環境部自然環境課
直接電話：092-643-3367
内線：3472
担当者：野生生物係 林・長谷

熊本県における高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜の確認について

＜野鳥監視重点区域の指定＞

熊本県南関町の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたことを受け、環境省により発生農場の周辺半径10km圏内が野鳥監視重点区域に指定され、野鳥の監視を強化することとしましたのでお知らせします。

熊本県南関町における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の 確認（家きん国内5例目）について

令和3年12月3日（金）

<福岡県同時発表>

令和3年12月3日（金）、熊本県南関町の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認された旨の報告がありました。この報告を受け、発生農場の周辺半径10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥の監視を強化します。

1. 経緯

- 12月2日（木）
- 熊本県南関町の養鶏場において、飼養鶏の死亡数の増加がみられたことから、当該農場の管理獣医師が簡易検査を実施した結果、A型鳥インフルエンザ（※）陽性と判明し、県に通報。
 - 県による簡易検査の結果、A型鳥インフルエンザ陽性。
- 12月3日（金）
- 県によりPCR検査を実施した結果、H5亜型であり、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認。

※ A型鳥インフルエンザ：病原性が高いものも低いものも含まれ、野鳥が保有している。

2. 今後の対応

- 熊本県及び福岡県は調整の上、野鳥監視重点区域内における野鳥でのウイルスの感染範囲の状況把握、感染源の推定や更なる感染拡大を防止するための基礎情報を得ることを目的とした緊急調査（鳥類調査、死亡野鳥調査等）を実施します。
- 野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルは、令和3年11月11日付で最高レベルの「対応レベル3」に引き上げており、全国での野鳥の監視強化を継続します。

3. 留意事項

- (1) 鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等があった場合を除いて、人には感染しないと考えられています。日常生活においては、鳥の排泄物等に触れた後には手洗いとうがいをしていただければ、過度に心配する必要はありませんので、周辺地域のみならず国民の皆様におかれては、冷静な行動をお願いします。
- (2) 同じ場所でたくさんの野鳥などが死亡している場合には、お近くの都道府県や市町村役場に御連絡ください。

（参考）野鳥との接し方について

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/2017yachotonosessikata.pdf

【取材について】

現場周辺での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むよう、お願いします。

【参考情報】

環境省ホームページでは、野鳥の鳥インフルエンザ発生状況など、高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。

http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html

「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」

(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html)

環境省自然環境局野生生物課			
鳥獣保護管理室			
代 表	03-3581-3351		
直 通	03-5521-8285		
室 長	東岡 礼治	(内線 6470)	
室長補佐	村上 靖典	(内線 6675)	
係 長	庄司 亜香音	(内線 6473)	
担 当	宮澤 結有	(内線 6477)	